

# ***OFRAC***

---

# ***NEWS***

---

***Vol.1***

***10, 11***



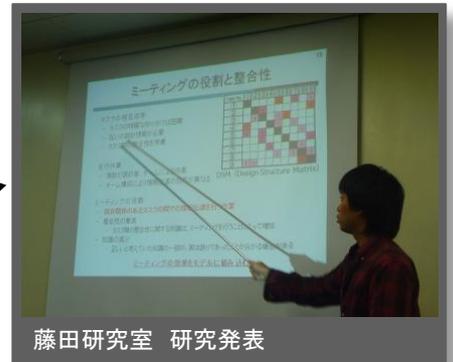
*2012 Osaka Univ. Formula RACING Club*

## 10 ~October~

- 3 テクノネット様取材
- 6 FSAE-Aコストレポート  
(電子版)提出 → P.2
- 10 第1回泉大津走行会 → P.2
- 13 FSAE-Aコストレポート(印刷版)提出 → P.2
- 14 学内大会結果報告会 → P.3
- 15,16 岡山走行会
- 22 上智大学技術交流会
- 25 藤田研究室研究報告 → P.3
- 28 コンセプト・レイアウトMTG



バラされたエンジン ZX600P7F



藤田研究室 研究発表

## 11 ~November~

- 1 第1回 カート走行会
- 6 第2回 泉大津走行会 → P.3
- 12 設計中間報告会 → P.3
- 14 川崎重工業様大会結果報告会 → P.3
- 19 機械系同窓会 → P.4
- 19, 20 メカライフの世界展
- 23 第3回泉大津走行会
- 24 シグナル様訪問
- 29 FSAE-A コンテナ発送  
→ P.4



川崎重工業様明石工場にて報告



OBの皆様より海外大会へ向けてのご寄付

## 速さを追求するために

2012年度車両の設計を進めるにあたって2011年度車両を用いて以下の項目のテストを行いました。

- ・バラストを用いた前後重量配分の変更。それに起因するヨー応答の変化を測定。
- ・アンチダイブの変更
- ・ステアリングアッカーマン率の変更。
- ・サージタンク容量の変更。それに伴うスロットルレスポンスの確認。 etc.

今までは実際に検証できていなかった項目に関して、一つ一つが乗りやすさ、速さに大きく関わってくるのがわかり、非常に有意義な走行会となりました。



テスト走行時風景



ヨーレートセンサー

## 得意競技において高得点を目指す

オーストラリア大会に向けてコストレポートを製作しました。日本大会と同じく1000ページ以上に及ぶ大作が完成しました。

コスト審査は日本大会において2連覇を果たし、私たちの得意とする競技です。海外でも通用するのか確認してきたいと思います。



オーストラリア大会版(左)と日本大会版(右)

## コストレポート製作を終えて



コストレポートは日本大会とベースは同じですが、英訳や日本大会で指摘を受けた点の修正など変更点も多くありました。2012年度日本大会に向けての設計も同時に進めるという中で、期限を守ることができて良かったです。大会当日のコスト審査では、審査員と英語でのやりとりということとなり、私にとって初めての経験ですが、海外大会でしか経験することができないので、精一杯戦っていきたいです。

**Suspension Leader / Cost Leader 住中 真(工学部2年)**

## 先生・職員のみなさまに結果報告

大会から1ヶ月ほど経過した10/14に学内大会結果報告会を開催しました。あいにくの天候にもかかわらず、たくさんの方々に足を運んで頂きました。

具体的には、2011年度リーダーの久堀より昨年度車輛の設計コンセプトや大会結果の報告をし、その後2012年度リーダーの後藤から新年度の概要や指針を発表しました。

参加していただいた皆様方、本当にありがとうございました。来年もこのように良い形で報告ができればと思います。



最後に記念撮影、コクピットには香月先生

## シャシー剛性が与える影響を測定

第1回の泉大津走行会の結果を受けて次の項目のテストを行いました。

- ・フレームのねじり剛性・曲げ剛性を变化させた場合のサスペンション影響測定
  - ・ブレーキダクト有無によるキャリパ温度差
  - ・輪速センサを用いたローンチコントロールシステム開発
- etc.

大きなトラブルも無く、テスト項目をこなすことができました。最後には、大会ドライバーでない多くのメンバーにも乗ってもらうことができました。



シャシー全体剛性の走行試験

## メンバー全員が設計を確認できる場

各設計者がチームメンバー全員に向けて設計目標や進捗を発表する場を設けています。

この場で指摘を受け、大きく方針が変わることもあり設計を進めるにあたって非常に重要な場となっています。



設計中間報告会風景

## 大先輩の方々へチーム紹介

新しく改修された豊中キャンパスの大阪大学会館にて、大阪大学工業会機械部会第49回総会が行われました。

私たちOFRACは同会において受付・案内等のお手伝いさせて頂き、その後の懇親会においてOFRAC活動紹介のプレゼンテーションを行いました。

大先輩の方々と直接お話をすることができ、貴重な経験となりました。また、たくさんの方々よりご寄付も頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



会場となった新・大阪大学会館（外観）



大阪大学会館 講堂

## いざ、海を越えて

12/15~18において開催されるオーストラリア大会へ参加するべく車両や機材を積んだコンテナを発送しました。

コンテナ自体の設計も行いました。尚、輸送費を下げるために、容積をできるだけ小さくなるように設計されています。



トラックへコンテナの積み込み風景

## 各種Mediaでのご紹介

2011年度の大会結果を受けて、様々な場所にて私たちの活動が取り上げられました。

- ・三栄書房 Motor Fan illustrated Vol.61
- ・日経 MONOist (web page)
- ・大阪大学工学部Topページ (期間限定)
- ・阪大NOW No.126
- ・大阪大学工業会誌 テクノネット
- ・自動車技術会関西支部ニュース

以上のようにOFRACが多くの方の目に触れる機会も増えてきました。これからも精一杯頑張って行きます。

# Sponsors

この活動は下記スポンサーの皆様のご協力により成り立っています。



- |           |          |           |          |          |           |
|-----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|
| 赤松 史光 先生  | 浅井 徹 先生  | 足田 八洲雄 様  | 飯島 茂 様   | 井岡 誠司 先生 | 石田 礼 様    |
| 石原 尚 様    | 池田 雅夫 先生 | 伊藤 益三 様   | 伊藤 英樹 様  | 稻井 麻美子 様 | 稻葉 大樹 様   |
| 井上 豪 様    | 井上 久男 様  | 岩崎 信三 先生  | 上野 功 様   | 浦島 一郎 様  | 大山 裕基 様   |
| 大路 清嗣 様   | 大曲 一総 様  | 小川 徹 様    | 荻原 智久 様  | 折戸 康雄 様  | 片岡 勲 先生   |
| 片山 聖二 先生  | 香月 正司 先生 | 川口 寿裕 先生  | 北市 敏 様   | 北田 義一 先生 | 木村 照 様    |
| 久角 喜徳 先生  | 倉田 宏郎 様  | 黒住 靖之 様   | 桑原 正宣 様  | 慶田 達哉 様  | 小林 廣 様    |
| 小西 亮 様    | 崎原 雅之 先生 | 阪上 隆英 先生  | 佐々木 真吾 様 | 芝池 雅樹 様  | 芝原 正彦 先生  |
| 渋谷 梓 様    | 清水 實 様   | 城野 政弘 様   | 白井 達郎 様  | 白井 良明 様  | 城阪 哲哉 様   |
| 神社 洋一 様   | 杉山 幸久 様  | 鈴木 光雄 様   | 瀬尾 健彦 先生 | 関 亘 様    | 高橋 良太 様   |
| 高橋 亮一 先生  | 竹下 吉人 様  | 竹田 太四郎 先生 | 田中 智 様   | 田中 敏嗣 先生 | 中塚 善久 様   |
| 中山 喜真 先生  | 中山 光治 様  | 長光 左千男 様  | 中村 龍世 様  | 名島 哲郎 様  | 長野 城昌 様   |
| 西村 博頭 様   | 西谷 大祐 様  | 根岸 学 様    | 野里 照一 様  | 野田 浩男 様  | 野間口 大 先生  |
| 橋爪 和哉 様   | 長谷川 徹 様  | 伴野 学 様    | 東森 充 先生  | 平方 寛之 先生 | 藤井 卓 様    |
| 藤田 喜久雄 先生 | 榎野 様     | 松浦 實 様    | 松下 純一 様  | 松本 忠義 先生 | 三津江 憲一郎 様 |
| 水谷 幸夫 様   | 水野 恵太 様  | 溝口 考遠 様   | 宮腰 久司 様  | 宮田 大輔 様  | 村井 貞雄 様   |
| 村山 慎一郎 様  | 森田 悦子 様  | 森本 清 様    | 森山 重信 先生 | 矢倉 得正 様  | 安岡 雅弘 様   |
| 山崎 圭治 様   | 山田 圭一 様  | 山本 恭史 様   | 山本 修三 様  | 山本 丈夫 様  | 吉井 理 様    |
| 芳川 晴彦 様   | 吉田 健一 様  | 吉田 憲司 先生  | 吉田 駿司 様  | 池内 祥人 様  | 早川 修平 様   |

## 終わりに

早いことで2012年度プロジェクトが始動してから、約3ヶ月が経とうとしています。

現在は目前に控えましたオーストラリア大会へ集中していますが、来年度車両の設計も同時に進めなければなりません。スケジュールは非常に過密ですが、チーム一丸となって頑張ります！！

プロジェクトリーダー  
工学部4年 後藤 明之

